



電子版機関紙 121号 発行責任者 瀬下 啓司

県連サイト <https://www.rosansaitama.com/>

三役会議題

参加者:瀬下、上野、橋本、岩岡

- ・6月21・22(土日)の合宿に向けて、それぞれで準備している提案など(アンケートのまとめ、組織改革の方向、有料講習会、ヤマスタ、県連の役割機能、会員の年齢構成など)の内容について意見交換した。
- ・合宿の二日間の概ねのスケジュール、参加人数と交通手段、合宿後の検討結果についての理事会での扱いや県連全体での確認と実施時期などについて話し合った。

・次回三役会:2025年7月7日(水)

全国連盟

県連全体

関東ブロック役員交流会
9/6(土)~9/7(日) 茨城県つくばふれあいの里
瀬下参加。なるべく複数の理事で参加したい。

事務局

- ・取り組み報告や理事会レジメの作成と理事への配信
- ・全国連盟などからの情報提供の各加盟団体への配信など
- ・加盟団体の「会報」の各加盟団体への配信
- ・理事会、講習会などの会場確保

財政

- ・全国連盟へ連盟費の振込(第2期)
- ・村口前理事へ報酬等の支払
- ・理事会合宿の精算

組織

ホームページ

ろうさん彩登120号掲載、埼玉労山アンケートの結果まとめ掲載、第2回沢登り教室掲載

登山学校

6月講座「計画から下山まで」6/7机上講座6/8実技講座「草戸山」にて実施、6/30運営委員会予定、7月講座「地図の読み方」7/5机上講座9:30ー、7/6実技講座「高水三山」実施予定

自然保護

・高篠峠植樹地下草刈り

5/25(日)に予定していた今年度1回目の下草刈りは雨天のため残念ながら中止とした。10/19(日)実施予定の秋の下草刈りにご協力をお願いいたします。

・グリーンハイク

全国一斉実施日6/1(日)。6/1(日)の実施でなくても大丈夫です。実施した会はブロックごとに結果を瀬下まで報告をお願いいたします。実施日、実施場所、参加人数、ゴミの量(kg)(可燃ゴミ、不燃ゴミ)

中部ブロック、南部ブロックは偶然実施場所が同じ越生の大高取山となった。山頂では短い時間であったが交流もあり楽しい時を過ごした。

・登山道整備

6月28日冠岩沢登山道整備 参加者:4会、11人 9:15-12:15 約20カ所の倒木を切断、移動して整備した。無事に終了。今回は、車道部分に4カ所新たな倒木ができ、撤去するにチェーンソーを利用したが、時間を要す。

・7月24日に自然保護委員会(オンライン)の予定。

海外

海外委員が海外山行を行っていたこともあり、県連総会以後、委員会活動はなにもないが、近々会議を開き、海外山行報告会の開催に向け準備を始める。また、来年の海外山行の企画についても検討する。

ハイキング

・谷川岳山開き

(2025.7/6日曜日)(群馬県連盟協力)に参加する。理事会から瀬下、岩岡が参加。上里ハイキングクラブより4名の参加。登山は往復ロープウェイを利用して天神尾根コース(岩岡、上里の計5名)。瀬下は群馬県連盟が手配した登山ガイドによる天神平散策ツアーに参加予定。今年も登山会員証を提示することでロープウェイ料金が半額になる。来年度以降の参加も見据え、下見を兼ねた山行としたい。

※この他、今年度はバスハイク(2026年2月または3月)のほか地図読み講習山行(11月30日の日曜日・正丸周辺)などを予定している。

遭難防止安全対策

6/29 セルフレスキュー研究会の沢の搬出訓練を、奥多摩・鷹の巣谷で行いました。6人が参加者。

- ① 末端交換三角法での渡渉訓練
- ② 介助懸垂下降
- ③ ザックでの怪我人搬出方法の研究を行いました。

7/12には、岩の搬出訓練を行います。

救助隊

新入隊員も含め、自らの山やクライミング繁忙期なので、救助隊としての活動はありません。隊員が沢登りやクライミングへ行ってきている事自体が訓練にもなっているのです。

ブロック活動報告

	会議日程		
西部		大下	
南部		富田	6/18の会議ではグリーンハイキングの総括。選択した場所、コースは概ね良かった。ゴミはほとんど無かったが、南部ブロック内の良い交流が出来た。次回の会議予定は8/21となった。
中部			今年度はグリーンハイク、地図読み山行、交流ハイキング、雪山山行を実施予定。 次回会議2025.10/2(木)LINEグループ会議19:00～。
北部		梅澤	6月1日北部ブロックグリーンハイク 美の山で実施 4つの会が参加、昼に、ヒヤリハット、事故体験に報告会を実施 参加者に好評でだった。

埼玉労山組織活動研究合宿

6/21(土)～6/22(日) 参加者 理事10人、理事以外5人

群馬県前橋市 理事山中さん別邸

2日間のべ10時間近く活発な議論が交わされた。県連盟会員およそ150人ほどから得られたアンケート結果の報告と分析、のべ10人ほどの基調報告をもとに、どのようにしたら新たな会員を迎えて若返りができるか、会員が望む県連盟活動のあり方などを話し合った。以下に議論された内容を記すが、今後の三役会議・理事会・評議会・意見交換会などでさらに議論を深め、来年3月の総会において規約改訂を含め新たな改革の方針を決定し実行していく。

埼玉労山理事会合宿 討論のまとめ

- ①埼玉労山の組織を委員会活動中心のものに変えていく。理事は各委員会の長が務め、少数精鋭で運営する。
- ②理事長、事務局長、専門委員会の長などには、活動謝金を出す。また、全国連盟の会議等に役職の必要から出席しなければならない時は、日当を出す。対象範囲、金額、予算項目等詳細については、理事会、会計担当理事と相談しながら、連盟費を値上げしない形で、どうしたら捻出できるか検討する。
- ③遭難防止・安全教育、ハイキングの各委員会では有料の講習会を実施する。参加者からは受講料をもらい、講師には謝金を支払う。
- ④③の委員会が主催する講習会については、埼玉労山の魅力と活動を若い人を含む広い層に知ってもらい、新規の会員獲得を目指すため、労山会員以外の方も参加できるようにする。また、若者への発信を強化するため、講習会の内容はホームページ以外の各種SNSでも発信していく。
- ⑤各会が集まって討議する機会は年1回の総会とする。(ただし臨時総会の召集要請があった場合は別。)
- ⑥ブロック活動については各ブロックの意見を確認しながら今後の方向を検討する。